

災害情報をどう伝えるか

平成26年3月14日

NHK

地域の安全・安心に役立つ情報提供

現NHK経営計画の最重点項目として「安全・安心」を守る取り組みを推進
テレビ・ラジオをはじめあらゆる伝達経路を活用し防災・災害情報を伝える

都営地下鉄浅草線・三田線 本数減らして運転

6:02

台風26号 関東沿岸接近へ
東京など広範囲 暴風域に

東京 伊豆大島
午前5時半

観測史上 最大
時間雨量(～午前4時前)
122.5 伊豆大島
(mm)

台風26号情報



緊急地震速報

イメージ

緊急地震速報 (気象庁)

千葉県で地震 強い揺れに警戒

千葉 茨城 栃木 群馬 埼玉
東京 神奈川 静岡



災害情報のデジタル発信

データ放送 →

dnhk 桜島噴火・風向き

桜島 噴火情報 | 桜島 火山レベル | 桜島 上空の風

最新の噴火情報

火 山：桜島
日 時：2013年10月2日午前9時10分 第2報
現 象：爆発
有色噴煙：火口上2400m
噴煙の向き：南（指宿方向）
火 口：昭和火口
回 数：今年685回目
噴 煙：やや多量
弾道噴石：6合目（昭和火口より300から500m）

河川水位雨量 鴨川 荒神橋観測所

9月16日 6:40 更新

現在水位 ↓ 235cm
過去最高 219cm

避難判断

災害の危険があります。今後の情報にご注意ください。

高野川	鴨川	天神川	小畑川	小泉川
大原 189cm	上賀茂 396cm	荒神橋 235cm	西院 229cm	大原野 160cm
松ヶ崎橋 172cm	北山大橋 193cm		松田村 136cm	

インターネット →

NHK ONLINE

河川水位・雨量情報 | 災害情報

首都圏放送センター 台風26号情報 [10月16日 8時29分]

項目を選択する 全国一覧 避難情報

- 最新情報 10月16日 8時25分 【千葉 市原市で避難指示】千葉県市原市は市内を流れる興老川が氾濫するおそれがあり、家屋が浸水する危険があるとして、流域の2588世帯、6139人に出している避難勧告を避難指示に切り替えました。
- 交通情報 10月16日 3時18分 【青津 小糸地区に避難指示】千葉県青津市は、台風による大雨で市内を流れる小糸川が避難判断水位を越えたため、16日午前8時に小糸地区のほぼ全域のおよそ3360世帯、8840人に避難指示を出しました。
- 被害状況 10月16日 8時44分 【都内の避難まど】午前8時現在、東京都内では59人が避難しています。伊豆群島の大島町では19人が町役場に避難しているということです。また、三宅村では17人が村の施設などに避難しているということです。このほか前橋市村木田区、江戸川区、杉並区、目黒区で、合わせて23人が公民館などに自主的に避難しています。

NHK 災害情報

大雪情報
甲府放送局

02月25日 12時57分 更新

雪害に関する情報（宅配便）

[02月21日 11時36分]

宅配便に関する最新情報は各社のホームページをご覧ください

- 最新情報
- 雪害に関する情報
 - 避難所情報
 - ガス・水道
 - ボランティアセンター
 - 各種相談窓口
 - ゴミ収集情報

デジタル媒体では、きめ細かい大量の情報を同時に伝えることができる

公共情報コモンズの災害情報を活用

The screenshot shows the NHK ONLINE interface for disaster information. On the left, a navigation menu for Niigata Prefecture (気仙沼市) is visible, with '田谷' (Taga) highlighted. The main content area displays '静岡県 開設避難所情報' (Shizuoka Prefecture Evacuation Shelter Information) for '富士市' (Fuji City). A table lists the shelters with their names, locations, contact numbers, and issuing authorities.

名称	所在地	連絡先	発信元
【富士市】鷹岡まちづくりセンター	富士市久沢836番地の1	-	富士市
田子浦まちづくりセンター	-	-	富士市
富士見台まちづくりセンター	-	-	富士市

■「発信元」に自治体名が記載されている場合には、自治体から配信されたデータをそのまま表示し、「NHK取材」の場合には、取材を通じて取得したデータを表示しています。

- 自治体がコモンズに発信した避難指示・勧告などを自動的に受信してデータ放送・ホームページ・携帯に表示するシステムを整備
- これまでに9つの放送局で運用開始

災害時の情報伝達のポイント

- ① 正確でリアルタイムの情報を多くのメディアで共有・発信することが、市民の安心安全に直結する
(デマや流言を訂正し、阻止する役割)
- ② 時間経過と共に、必要とされる情報は多様化、増大する
命を守る避難情報→生活を維持するライフライン情報
- ③ 適切な行動と判断をするためには
 - ・全体状況(全国・全県) ・地域の情報(市町村レベル)
 - ・周囲の状況(局所の情報)の階層化された情報が必要

住民のニーズに即した情報提供の必要性

先月の大雪の際の
NHK甲府データ放送

中越沖地震(2007年)の際
のNHK新潟データ放送

ほとんどの情報は電話・ファックス・記者発表等アナログ的手法



- 情報収集・データ入力・確認に手間ひまがかかる
- 正確さ・迅速さ・きめの細かさが欠けるおそれ
- 編集権を守りつつ、住民ニーズに応える情報収集の仕組みが必要
- 共通のフォーマットで情報が発信されれば、放送だけでなく、WEBやデジタルサイネージ等への展開も可能になる